

第9回熊本市液状化対策技術検討委員会 協議資料 【近見地区】

熊本市

令和元年7月26日

議事(1) 地下水位低下工法の
再検討区域について

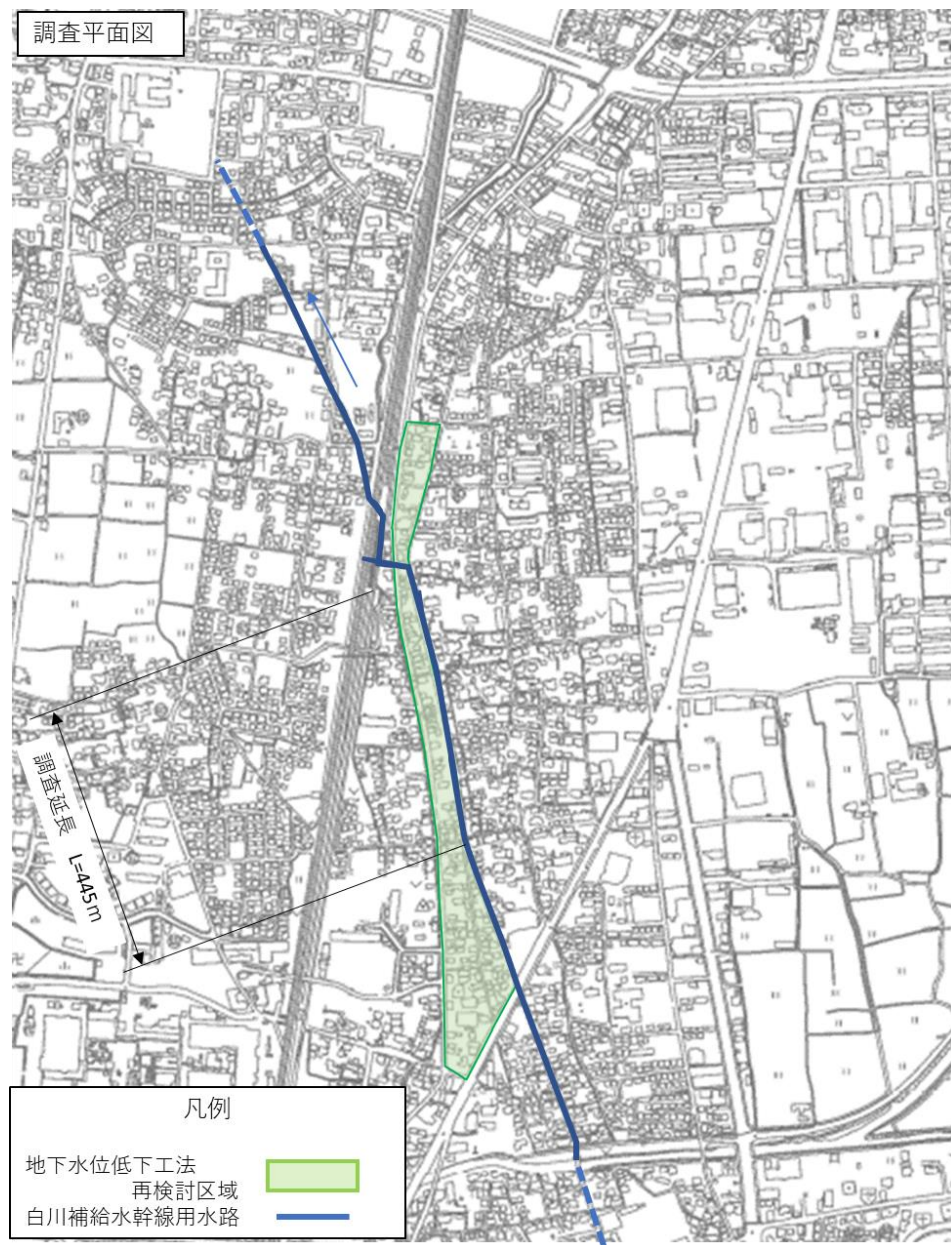
議事(2) 対策不要区域について

【対策区域の再検討①】

前回委員会において、右図の着色区域(緑色)は、対策工(遮水壁や地下排水施設)を設置することとなる道路に、白川補給水幹線用水路が昭和62年以前に暗渠として埋設されており、当該施設の老朽化等を考慮すると施工が難しいことから、地下水位低下工法による対策区域外としていた。



地下水位低下工法実施に向け
幹線水路の詳細調査を実施



幹線水路の詳細調査位置図

【対策区域の再検討②】

詳細調査を実施の結果、**函体**に**大規模な漏水、損傷箇所**等の確認はされなかった。



当該区域での地下水位低下工法による対策は可能と判断
【**対策検討区域に追加する**】

地下水位低下工法の実施

同意率100% ⇒ 同意率80%



地下水位低下工法の再検討区域図

【対策不要区域の検討①】

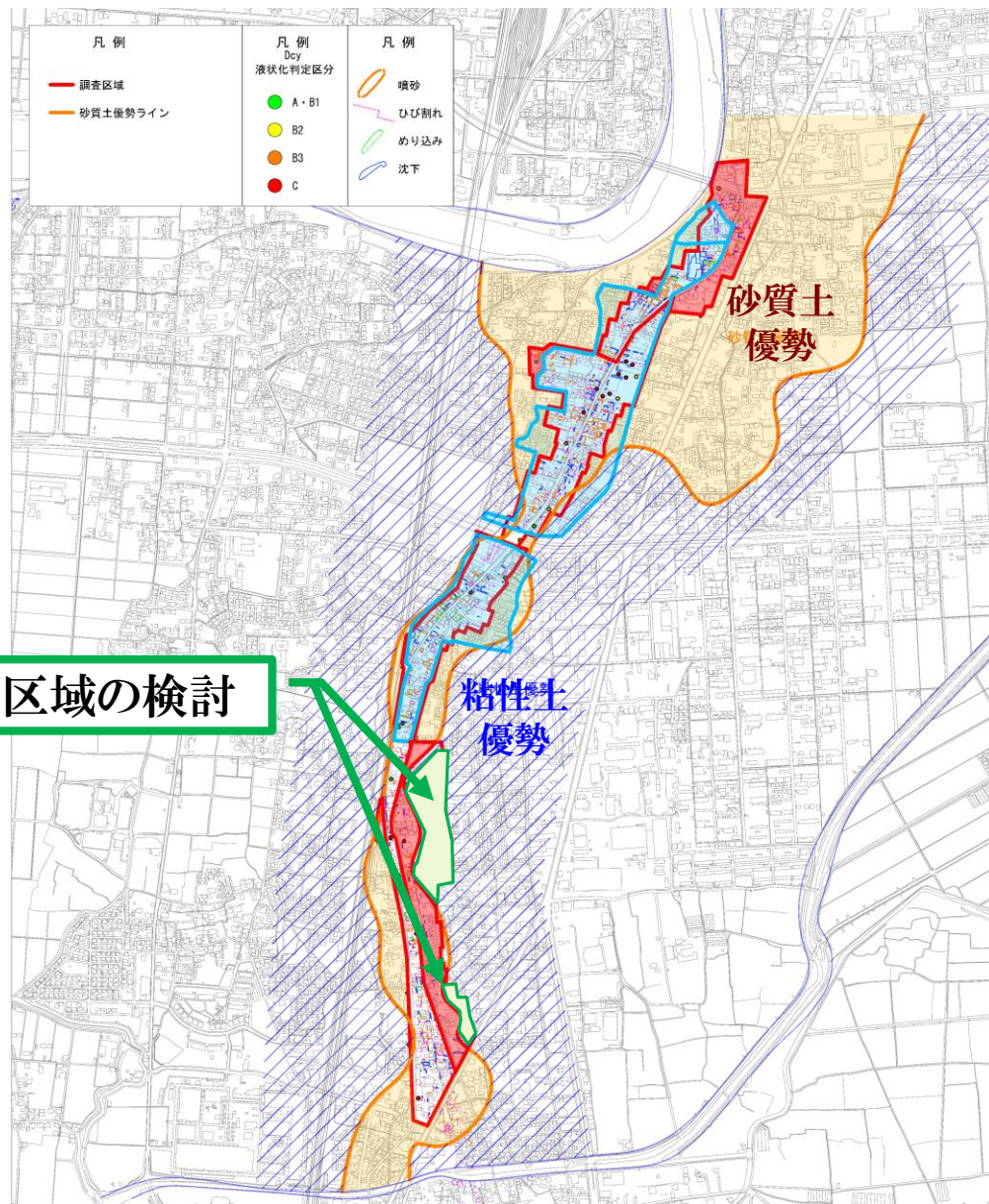
これまで、右図の青色斜線区域は、粘性土の分布が優勢な範囲であり、地下水位低下工法により、有害な沈下が発生する範囲として、対策不要区域としていた。



対策不要区域の検討

調査区域内(赤線)における対策要否を判定するため、実被害状況との重ね合わせを行い、対策不要区域を設定

【粘性土優勢範囲】
調査区域の境界付近の土質分布に着目して設定
目安はGL-3m程度のうち、粘性土の割合が優勢な範囲



対策不要区域の検討範囲図

【対策不要区域の検討②】

粘性土優勢区域で、**顕著な液状化被害や噴砂などの現象が認められなかった**区域については液状化対策は不要と判断



【対策不要区域に設定】

対策不要区域

対策不要区域



対策不要区域図(案)